

市川 図書館だより No.107



2021. 6. 15

発行：市川市中央図書館 編集：広報委員会 〒272-0015 市川市鬼高1-1-4 TEL. 047-320-3346

コロナ禍のいま、“感染症”について知る

有史以来、様々な感染症が世界各地で発生してきましたが、現代の日本ではどこか対岸の火事のように思っていた方も多いのではないでしょうか。しかし、2019年12月に発生した新型コロナウイルスは、世界中の人々を不安に陥れ、経済にも大きな打撃を与えました。その後も、2020年の夏から冬にかけての第二波、第三波に続き2021年には第四波と、未だ感染の終息が見えない状況です。ニューノーマルという言葉が使われるように、これからは、私たちの生き方や価値観そのものを見直し、今後について考えていかなければならないでしょう。どのような状況にあっても、正しい知識を身につけることを心がけ、落ち着いて対処したいものです。



動物由来感染症の種類

動物由来感染症とは、動物から人間にうつる感染症です。インフルエンザも動物由来感染症と考えられています。

- ペスト** 記録に残る最初のペスト流行は、紀元541年コンスタンティノープルに始まる。14世紀に黒死病と恐れられたペストにより、当時8,000万人だったヨーロッパの人口の60%が死亡したと言われる。また、17世紀の「ロンドンのペスト大流行」では6万人余が死亡したとされる。
- ロシア風邪** (1889-) 東方からヨーロッパに襲来し、海路によってアメリカに到達。アジアとアフリカにも蔓延し、ヨーロッパで少なくとも25万人、世界中でその倍の人が亡くなったという。
- スペイン風邪** (1918-) 当時の世界全人口のうち、およそ6億人が罹患し3,000万人が死亡した。日本では、2,300万人が罹患し、39万人近くが死亡したという記録が残っている。
- 香港風邪** (1968-) アメリカで香港風邪が流行、34の州で感染が確認され年内までに3,079人が死亡した。香港風邪での世界全体の死者は100万人を超えた。
- エボラ出血熱** エボラ出血熱が世界で初めて確認されたのは、1976年の中央アフリカ。ザイール（現コンゴ民主共和国）とスーダン南部（現南スーダン）で集団感染が発生した。「エボラ」は、ザイールを流れるエボラ川から付けられた。
- SARS** (2002-) アジアを中心に世界中で774人の死者がでた。この肺炎は新種のコロナウイルスが病原体でジャコウネコ科のハクビシンが保持しており、それが人間に感染したとの見方がある。東アジアから世界中に拡大し、WHOから異例の「地球規模的警告」が発令された。約30の国と地域で8,000人が発症し、各国で政治経済が混乱に陥った。
- 鳥インフルエンザ** 1997年、香港で人への感染が初めて確認された。その後、アジアを中心に中東、アフリカ、アメリカ大陸に広がった。2008年には、主に韓国・インドネシア・香港で流行。過去2回あった流行より拡散が速く、処分された鶏やアヒルも、過去最大の635万9,000羽に達した。
- MERS** (2012-) 中東呼吸器症候群。サウジアラビアに現れたMERSはSARSに似た病気で致死率は40%にも達する。ヒトコブラクダからの感染が疑われ、コウモリが持っていたウイルスがラクダに広がった可能性がある。

参考資料：『世界災害史事典 1945-2009』日外アソシエーツ編集部／編集（日外アソシエーツ 2009）
 『ウイルスが嗤っている』根路銘国昭／著（バストセラーズ 1994）
 『感染症クライシス』(洋泉社 2015)
 『ビジュアルパンデミック・マップ』サンドラ・ヘンベル／著 竹田誠ほか／日本語版監修
 関谷冬華／訳（日経ナショナルジオグラフィック社 2020）

文学における感染症



感染症は昔から文学のテーマとして取り上げられてきました。そのうちのいくつかをご紹介します。

『臆病な都市』

砂川文次／著（講談社 2020）

鳥の不審死から始まった新型感染症の噂は、主人公Kを巻き込んでいく。新型感染症をめぐる組織の不条理を描き出す。

『火定』 澤田瞳子／著

（PHP 研究所 2017）

天平の時代、蜂田名代の働く施薬院で、高熱が続き、その後突然熱が下がる不思議な病が発生した。それは恐ろしい天然痘の流行の前兆であった。

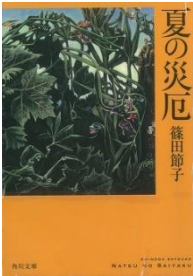


夏の災厄

『夏の災厄』 篠田節子／著

（KADOKAWA 2015）

日本脳炎と診断され、痙攣を起こしながら次々と倒れていく住民。撲滅されたはずの伝染病がなぜ今頃流行するのか。



『首都感染』

高嶋哲夫／著（講談社 2013）

中国で致死亡率 60%のウイルスが発生、世界規模にまで膨れ上がり、日本にも到達し始める。そんな中、日本政府は首都東京を日本全体から隔離しようと模索する。

『白の闇』

ジョゼ・サラマーゴ／著
雨沢泰／訳
（河出書房新社 2020）

男は突然、失明した。その突然の失明は原因不明のまま無差別に蔓延していく。

『ペスト』 カミュ／著

宮崎嶺雄／訳
（新潮社 2004）

始まりは鼠だった。やがて死者が出始めて…。ペストに気づいた町はパニックに陥る。

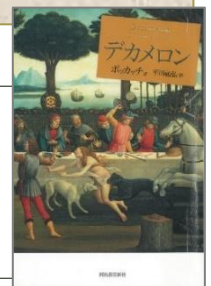
『新訳ペスト』ダニエル・デフォー／著

中山宥／訳（興陽館 2020）

1665年、ロンドンで起きたペストの大流行についての出来事が観察記録のように綴られている一冊。

『デカメロン』 ボッカッチョ／著 平川祐弘／訳（河出書房新社 2012）

官能的な物語といったイメージがあるが、デカメロンが書かれたのは14世紀ヨーロッパのペストが大流行した時期であり、作品のイントロダクションはそのペストの描写から始まる。



コロナ禍と向き合う本



私たちは、21世紀最大の禍「コロナ」とどう向き合って生きていくべきなのでしょう。日々迷い悩みながらも、強い心で前に向かって進んでいきたいものです。

『寂聴先生、コロナ時代の「私たちの生き方」教えてください！』

瀬戸内寂聴／著、瀬尾まなほ／著（光文社 2020）

寂聴はコロナ禍をどのように見ているのか。寂聴の66歳年下の秘書が、これからの生き方について聞く。

『私たちはどう生きるか コロナと向き合う』

福岡伸一／ほか著（婦人之友社 2020）

新型コロナウイルスに向き合う姿勢とは、コロナ禍のいま何を大切にして生きていくべきか。あさのあつこ、山中伸弥らから寄せられた、心のよりどころとなる16のメッセージ。

『コロナ不安に向き合う 精神科医からのアドバイス』 藤本修／著（平凡社 2020）

長期化するコロナ禍の中で心の健康を保つためには？ 精神科医の著者が、コロナウイルスによるストレスの実態や感染者の家族の心理、コロナに関連する精神疾患の事例などを解説する。

新型コロナウイルスについて知る本



2019 年末から始まったコロナ禍は、アツという間に世界中に拡散しました。そこから現在までの軌跡をたどってみましょう。

『新型コロナ 見えない恐怖が世界を変えた』 (クレヴィス 2020)

コロナが変えた世界の国々を撮影した 210 点余りの写真レポート。

『新型コロナはいかに世界を変えたか？』

THE CHRONICLE of NEW CORONAVIRUS DISASTER』

(樫出版社 2020)

パンデミック対応と世界経済が解るデータ分析書。

WHO が名付けた新型コロナ
ウイルス感染症は

コビッド ナインティーン
COVID -19



『人類対新型ウイルス 私たちはこうしてコロナに勝つ』 トム・クイン／著, 山田美明／訳, 荒川邦子／訳 (朝日新聞出版 2020)

イギリスのジャーナリスト、社会史研究家である著者が、人類に襲い掛かるウイルスとの攻防史から学んだこととは。

『新型コロナ対応・民間臨時調査会調査・検証報告書』 アジア・パシフィック・イニシアティブ／著 (ディスカヴァー・トゥエンティワン 2020)

新型コロナウイルス感染症に対する日本政府の対応と措置を中心に検証している。

『人類 vs 感染症 新型コロナウイルス世界はどう闘っているのか』 國井修／著

(CCC メディアハウス 2020)

新型コロナウイルスに関する情報をグローバルな視点で解説している。

豆知識 パンデミック (Pandemic)

広範囲に及ぶ流行病

2019 年末頃から中国武漢で新型コロナウイルスの感染が急激に拡大し、全世界に広まっていた。

2020 年 3 月 11 日に WHO (世界保健機構) は、パンデミックを宣言した。

クラスター (Cluster)

集団感染したその集団を意味する。一般的には塊などを意味する。



『山登りでつくる感染症に強い体 新型コロナウイルスへの対処法』

齋藤繁／著 (山と溪谷社 2020)

コロナに負けない抵抗力のある身体づくりのコツや生活改善法について、コロナ禍の医療現場で働く著者が実際のデータを基に検証する。

『コロナ移住のすすめ 2020 年代の人生設計』

藻谷ゆかり／著 (毎日新聞出版 2020)

様々な理由から都心を捨てて地方移住を模索した人々の 20 の事例を紹介する。移住の前に考えたいポイントや、地方での暮らしの実態、生活費についても解説。

『新しい生活』 曾野 綾子／著 (ポプラ社 2020)

先の見えない時代に生きがいを見出す心得とは？ コロナ禍における生き方の指針を独自の視点で説く。



コロナの後の世界を考える本

コロナによって私たちの暮らしはどのように変わっていくのでしょうか。個人では外出自粛や海外渡航禁止などの不自由な暮らしを余儀なくされ、企業はテレワークやリモートワーク、時差出勤などを取り入れて、働き方改革が一層推進されたように見受けられます。新型コロナウイルスが私たちの生活にもたらしたものは多岐に渡り、今後の生き方や価値観を各々が考える時が来ています。

『コロナ時代を生きるヒント』 鎌田實／著（潮出版社 2020）

「僕はコロナとの闘いには三段階あると考えている。たとえば緊急事態宣言中など、厳しい戦いを強いられている状態を「オン・コロナ」。徐々に感染者は減っているがゼロにならない状態を「ウィズ・コロナ」、そして、感染者がほぼ発生しなくなり、たまに散発する程度を「アフターコロナ」。僕は、この三段階を経るなかで、常に「ビヨンド・コロナ」を意識するようにしている。すなわち、コロナを超えて、じぶんたちの考え方や行動をいかに変えていくべきか。社会をコロナ前に戻すのではなく、より良い社会に替えていこうという意識だ。」

本文「はじめに」より抜粋

『コロナ後の世界を語る』

現代の知性たちの視線』

養老孟司／ほか著（朝日新聞出版 2020）

各界で活躍する人々22人によるアフターコロナ論。

『コロナが変えた世界 COVID-19』

(P ヴェイン 2020)

新型コロナは世界をどう変えたのか？様々なジャンルで活躍している人々がそれぞれの観点から コロナ時代を考察する。

MEMO 「働き方改革」

2018年に「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」が成立し、2019年4月1日より順次施行されています。

働く方々が、それぞれの事情に応じた多様な働き方を選択できる社会を実現するための要旨として、

- 長時間労働の是正
- 多様で柔軟な働き方の実現
- 雇用形態（正規・非正規）にかかわらず公正な待遇の確保が挙げられます。

MEMO 「テレワークとリモートワーク」

テレワーク（「tele=離れた所」と「work=働く」をあわせた造語）

テレワークとは、情報通信技術（ICT：Information and Communication Technology）を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のことです。

テレワークは働く場所によって、自宅利用型テレワーク（在宅勤務）、モバイルワーク、施設利用型テレワーク（サテライトオフィス勤務など）の3つにわけられます。

リモートワーク

リモートワークは、自宅など職場から離れた場所で仕事をする勤務形態のことです。新型コロナウイルスの影響による、多様な働き方の広まりの中で、JR東日本では、走行中の新幹線の車両内で、「新幹線オフィス」の実証実験を進めています。



効率的なテレワーク・リモートワークのために— おすすめの一冊

- 『リモートワーク大全 悩みがなくなり成果があがる105のこと』 壽かおり／著（ポプラ社 2020）
- 『Zoom・Slack・Teams テレワークに役立つ教科書 この一冊で全部わかる!』
岡田真一／著（SBクリエイティブ 2020）
- 『テレワーク入門 在宅勤務の基本が身に付く本』
法林岳之／ほか著（インプレス 2020）
- 『定番アプリ超活用テレワーク全事典』 コグレマサト／ほか著（インプレス 2020）

